

長岡工業高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	構造解析学Ⅱ
科目基礎情報				
科目番号	0196	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	物質工学科	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	基本無機化学			
担当教員	小出 学			

到達目標

(科目コード: 41650、英語名: Structural Analysis II) この科目は長岡高専の教育目標の(D)と主体的に関わる。この科目的到達目標と、長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習教育目標との関連の順で示す。
 ① 結晶構造および群論を理解する。
 50%(d1)、②赤外、ラマン分光分析の基礎を理解する。25%(d1)、③ X線回折法の基礎を理解する。25%(d1)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	結晶構造および群論の基礎と応用を理解する。	結晶構造および群論の基礎を理解する。	結晶構造および群論の基礎を概ね理解する。	結晶構造および群論が理解できない。
評価項目2	赤外、ラマン分光の基礎と応用を理解する。	赤外、ラマン分光の基礎を理解する。	赤外、ラマン分光の基礎を概ね理解する。	赤外、ラマン分光を理解できない。
評価項目3	X線回折法の基礎と応用を理解する。	X線回折法の基礎を理解する。	X線回折法の基礎を概ね理解する。	X線回折法を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	固体材料の物性は、構成する原子やイオンの配置と深く関係している。そこで、構成する原子およびイオンの基本的性質を踏まえ、分光学的手法を用いた原子、イオン配置の解析手法を学ぶ。さらに、原子、イオンの配置と物性との関係を理解する。 ○関連する科目: 構造解析学Ⅰ(本科5学年前期履修)、溶液化学(専攻科2学年前期履修)
授業の進め方・方法	結晶構造および群論の基礎および応用を理解し、構造解析の考え方を理解する。解析方法として、赤外、ラマン分光法の原理を習得し、分子振動の概念を習得する。さらに、X線回折法の原理を習得し、結晶構造の解析を行なうと共に、各材料が有する物性との関連性を理解する。
注意点	無機化学Ⅰ、無機化学Ⅱ、無機材料工学の知識が必要であるので、授業を進めていく段階で、復習することが必要である。

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週 化学結合と結晶構造 1	一般的な性質
		2週 化学結合と結晶構造 2	イオン結合、共有結合
		3週 分子振動と群論 1	分子構造
		4週 分子振動と群論 2	対称要素
		5週 分子振動と群論 3	対称性と群論
		6週 分子振動と群論 4	赤外、ラマン分光法の基礎
		7週 分子振動と群論 5	赤外、ラマン分光法の応用
		8週 結晶構造解析 1	X線回折法の基礎
後期	4thQ	9週 結晶構造解析 2	結晶学的記述法
		10週 結晶構造解析 3	X線回折と消滅則
		11週 結晶構造解析 4	結晶構造因子
		12週 結晶構造解析 5	粒径測定と定量的解析
		13週 その他の分光法	X線分光法、
		14週 その他の分光法	電子線分光法
		15週 構造と物性	構造解析と物性
		16週 期末試験 17週: 試験解説と発展授業	期末試験

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	化学・生物系分野	結晶の充填構造・充填率・イオン半径比など基本的な計算ができる。	4	後1, 後2, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12
			配位数と構造について説明できる。	4	後3, 後4, 後5, 後6, 後7
		分析化学	代表的な元素の単体と化合物の性質を説明できる。	4	後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後14
			無機および有機物に関する代表的な構造分析、定性、定量分析法等を理解している。	4	後8, 後9, 後10, 後11, 後12
			特定の分析装置を用いた気体、液体、固体の分析方法を理解し、測定例をもとにデータ解析することができる。	4	後13, 後14

評価割合

	試験	相互評価	合計
総合評価割合	80	20	100

基礎的能力	40	10	50
專門的能力	40	10	50
分野橫斷的能力	0	0	0